※サンプルを参照して以下に記入いただき、完成後にメールの添付ファイルで学科等の FD 委員に送信してください。

報告者氏名　山下 祐一郎

FD 名称　教育改革 ICT 戦略大会（私立大学情報教育協会）

主　催

開催日時　平成 28 年 9 月 6 日から 8 日（参加は 6 日と 8 日）

開催場所　アルカディア市ヶ谷（私学会館）

講　師　日本学術振興会 理事長 安西祐一郎 先生 他

FD 内容　９月６日の教育改革 ICT 戦略大会は全体会であった．まず，安西先生から「３つのポリシー（入学選抜・カリキュラム・学位授与）の省令化による内部質保証の課題」という演題で講演があった．その他，アクティブラーニングや e ポートフォリオ（学修評価などへの利用）に関する講演が行われた．

９月８日は各大学の実践事例の紹介が口頭発表やポスター等の形式で行われた．内容としては，大学改革の手段として ICT システムの導入・運用が行われた事例が多かった．

報告書コメント（感想含む）　教育改革 ICT 戦略大会で印象に残った点をまとめる．

・内部質保証の枠組みを利用して教員が主体的に授業改善などを行うことが求められる（枠組みを用意して終わりではない）．

・今の若い世代は社会に多くの課題があり大変だが，様々なチャンスが回ってくる（少子化による人材不足，既存の枠組みの崩壊などが理由と推察する）．

・アクティブラーニングは，若い世代を挑戦的にしたいという目的がある．そのためには，まず教員が挑戦的になる必要がある．

・大学にも身を切ってもらわないと改革はできない．そうでないと，日本と若い世代がダメになってしまうというコメントがあった．

・（安西氏の私見として）日本の大学はどのような卒業生を出すのかが大切．社会や地域などに貢献できる人材を排出する必要がある．

・高大接続は，大学にとっては大社接続（大学と社会という意味）である．大学が地域と繋がることで人材のニーズを把握し，ニーズに合う人材を育てて欲しい．

・教職員が一体となって大学の改善に挑む必要がある．

・アクティブラーニングやライティング指導などには，とにかく人手がかかる．そこで，チューターを利用する必要があり，チューターの育成が必要となる．

・ポートフォリオを単体で利用するのでは無く，シラバスや図書館などのシステムと連携させる．そうすることでエビデンスを示しやすくした．

・学生に将来の目標を持ってもらうことが大切．キャリア教育でできるだけ早く目標を持ってもらう．

・ポートフォリオは学生の自己評価を主にしている．この自己評価にエビデンスを

つける．エビデンスとしては授業，サークル，アルバイト，留学，何でも良い．
・学生と教員のポートフォリオをベースとした面談を考えている．この面談でエビデンスの信頼性を向上させる狙いがある．
・ポートフォリオを書いていない学生は，先生から呼び出しがある．
・授業で複数のグループに分ける必要がある場合，情報の発信や共有などについて，LMS は非常に有利である．同じ情報を複数のグループに同時に配信できる．
・地方でインターンシップを行う際の問題点として，交通費・滞在費の問題，及び，授業を休まなければならないこと．そこで，遠隔でのインターンシップを試みたという発表があった．
・Google Apps を LMS として利用することを検討している大学があった．本学でも Google Apps を導入しているので可能かもしれない．

【山下の感想】
本学，特に山下が在籍する教育学部は地域との連携，キャリア教育，将来の目標などについては既に対応ができていると感じた．例えば，早くから小学校などの現場を体験させているし，TSE などの活動を通じて地域との連携も行っている，また，TFU 教育フォーラムを通じて卒業生のリカレント教育を行いつつ, 在学生らには教育現場との触れ合いの機会となっている．さらに，入学当初から小学校の先生や幼保の先生になりたいという目標を持った学生が多い．
上述の事情があってか，本学は様々な支援体制も充実しているほうなのではないかと感じた．地域との連携，キャリア教育，海外研修など枚挙に暇がない．これはこれまでの教職員の方々の頑張りなのだろうと改めて感心した．
一方で，それらが学内外に伝わっているのか，また，効果的に運用されているのかという点に疑問がある．せっかくいろいろな枠組みがあるので有効活用しないともったいないなと感じた．とりあえず自分の仕事に割り当てられているシステム周りは頑張ります．
情報システムの利活用についても課題が見られる．例えば，ポートフォリオは本学でも導入されているものの，活用については改善の余地が感じられる．特に，教育学部の学生は，将来，児童生徒を評価する立場になるので，自分を例に評価の練習をして欲しい．全学的にシステム導入と教育が切り離されて考えられているのが原因なのかも知れないと考えながら発表を聞いていた．うまく回っているところは，教員が教育熱心なのはもちろん, 職員さんも教育に対しての関心が高い感じがした．Google Apps を LMS の利用は本学でもできそうだが，機能を考えると既存の LMS（本学では EduTrack）を強化するために Google Apps と連携するというのが妥当なのではないかと感じた．

報告日：平成 28 年 9 月 9 日